

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490300092		
法人名	有限会社マミーホーム		
事業所名	グループホーム梅の宮マミー ユニット:ひまわり		
所在地	宮城県塩釜市梅の宮16番11号		
自己評価作成日	2022.2.25	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2022年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは海を一望できる高台にあり避難場所にも指定されています。利用者様は毎日育ってきた街並み、海を眺めながら生活することによって心は落ち着き穏やかになりその人らしい生活を過ごして頂けるように支援しています。利用者様の性格やこれまでの生活状況を把握しホームでの役割を持つことによって不安なく安心して生活して頂けるように職員一丸となって情報を共有しながら統一したケアを心がけて支援しています。またホームにはバスもあり時々には利用者様と一緒に職員が運転するバスに乗りドライブを楽しんだり併設しているデイサービスへ行きレクリエーション行事に参加者し交流を楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2020年12月に開設した2ユニットの平屋建てのホームで、緑豊かな環境と海が臨める高台の静かな住宅街に立地している。法人母体の(有)マミーホームは通所介護、日常生活支援総合事業を運営している。職員は、マミーホーム介護理念「一、皆様の尊厳及び権利を尊重します。二、皆様を平等に対応します。三、自己の能力を磨きます。」を拠り所に、利用者が家族や地域に支えられ、尊厳ある人生が全うできる支援を目指している。コロナ禍前はホームのバスで外出したり、ボランティアとの交流、温泉入浴を楽しむ等の取組みを地域や人々との交流の要とし、地域と繋がりながら暮らし続けられるよう支援して来た。管理者は人材育成と確保に熱意を持ち、様々な受験のためのサポートを行い、意欲的に資格取得支援に取り組んでいる。また同時に高校卒業生を積極的に採用するなど、若者の介護人材確保にも努力している。一方、更なる高齢化や介護度の変化による重症化に対応するため、今後、看取りや医療連携などの体制作りの強化を進め、利用者が安心してこの地でその人らしく最期まで過ごせるよう取組み始めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホーム梅の宮マミー）「ユニット名 ひまわり」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的に研修会を行っている。そこでマミーホームの理念を職員に周知徹底を行っている。	マミーホーム介護理念があり、利用者の尊厳や権利の尊重が根幹となっている。新人研修や、年度初めに前年度の介護の振り返りと共に理念の研修を行い、理解を深めている。またホームの「介護の基本原則」「介護職の職業倫理」を作成し周知徹底している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の町内清掃への参加で側溝掃除、草取り等職員がと利用者様で参加して町内の方々と一緒に年に数回取り組ませて頂いています。	コロナ禍の下、地域との交流は困難な状況にある。町内会に加入し、令和2年(コロナ禍前)には、町内会の夏祭り、町内清掃や草取りなどを地域住民と一緒にいった。感染症対策を万全にし、歌のボランティアとの交流を実現させた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に町内会長、民生委員の方にも参加して頂きホームでの活動の様子等を報告をし理解して頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの取組み状況や出来事ご利用者様の様子報告を行いご利用者様や、町内会長、民生委員、地域包括支援センター、市役所職員の方も参加して頂き報告、質疑応答にて話し合いをし会議を行っています。	第1回目の会議を令和3年12月に市職員、地域包括職員、町内会長、民生委員、家族が参加し開催した。利用者の状況や研修、ヒヤリハット報告の他、コロナ感染症対策についても情報交換し、双方向な会議が行われた。コロナ禍での会議の運営方法として、書面開催等を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	塩竈市の担当者とは連絡を取りご意見を頂き運営推進会議にも参加して頂いています。	市職員からは開所に当たり相談し助言を得ていた。運営推進会議で情報交換を行い、日常的にも相談しやすい関係ができており、協力体制が築かれている。また、ホーム運営上の医療連携や加算など、今後直面する医療や看取りの課題についても情報交換を行い協力体制を整えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の資料を元に職員研修を行っています。身体拘束の事例はありません。	「身体拘束排除宣言」を策定し「身体拘束排除マニュアル」を整備して、身体拘束適正化委員会を定期的に開催している。また、新人研修や職員研修を通して、身体拘束をしないケアを学び実践に繋げられるよう努めている。玄関の施錠は行っていない。2市3町の見守りネットワークに加盟し、緊急時には協力が得られる体制がある。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の資料を元に職員研修を行っています。虐待の事例はありません。	定期的に身体拘束廃止についての研修と一緒に虐待防止の研修を行っている。研修後に職員は自己チェックを行い共通認識に努めている。不適切な言葉遣いやケアなどに注意を払い、未然に防止する体制を整えている。管理者は職員の普段とは違う様子などにも気を配り声掛けし、相談に応じたりしている。助成金を活用し介護ロボットを導入し職員の負担軽減を図り、虐待の未然防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての資料を元に職員研修を行ってもとに職員研修を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には契約事項についてきちんと説明し納得して頂き同一を得ています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月にホームでのご様子をを文章と写真などでお知らせしています。また意見や要望に対してなどアンケートを取らせていただき運営に反映させて頂いています。運営推進会議へのご家族様の参加	運営推進会議や介護計画作成時など定期的にアンケートを行い、意見や要望を聞き運営や作成に活かしている。毎月情報紙「マミーパラダイス」と便りを郵送し、感染症防止対策や医療に関する質問に答えたり、利用者の様子を伝えている。電話時や来訪時には積極的に声掛けし、意見や要望を聞いている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は随時、職員との面談する機会を設け意見を聞きまた年二回は必ず機会を設け意見を聞いています。	月1回の職員会議で意見・要望を聞いており、「職員の連携について」などについて意見を交わし、改善に繋げている。管理者は職員と年2回面談を行い、目標やその評価について話し合い、運営に関する意見も聞きながら、働きやすい職場作り取り組んでいる。介護福祉士、ケアマネなどの専門職の人材育成を目標にして、職員の資格取得支援を積極的に行い、受験料援助、シフト調整などの支援をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場づくりを目指して日々職員一人ひとりを大事にし職員同士の交流の機会を定期的に設けスキルアップ向上にも支援し資格取得や研修費負担なども支援しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップへの支援として勉強会の開催外部研修への費用負担等積極的に支援しています。研修などの情報を随時提供しています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	デイサービスの利用者様と週一回～二回程度合同レクリエーションを行っています。	塩釜市や、宮城県ケアマネ協会塩釜支部などのリモート研修に参加し、情報交換を行うなど交流を通じて、ケアの質の向上を図っている。同法人の他事業所と合同研修で「感染症対策」について学び合い、隣接するデイサービスとは合同で行事を行い、利用者の楽しみや新たな関係づくりを図っている。宮城県グループホーム協議会に入会する予定にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様のこれまでの生活状況や趣味などを踏まえてご利用者様に寄り添い不安に思っている事。要望などをきちんと把握しながらチーム一丸となって安心していただけるように支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に安心してご利用して頂けるように不安なこと要望などはお伺いしてご理解して頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様にとって必要とされるサービスを提案しご家族様と共に検討して色々なサービスを紹介しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者様を家族と思いとに生活することによってご利用者様のその人らしさを大事にしています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が面会にいらした時などご本人様と一緒に話し合いをする機会を設けご本人様が思っていることなどを共に伝えご家族様との絆を大切にしています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方が面会に来られたり入居前まで通っていたデイサービスの仲間定期的に会い楽しい時間を過ごされています。	コロナ禍以前は友人、近隣住民、親戚、子どもや孫が面会に訪れ、デイサービスの利用者も定期的に来訪し交流する機会も多かった。現在、コロナ感染予防対策のためチェックを厳しく行い、面会は玄関近くに場所を設けて、他の利用者との接触を避け行っている。SNSを活用し、オンライン面会をする人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームでの家事をともに一緒に行うことによってご利用者様同士支え合う環境づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	症状が進み医療的な処置が必要となり退居が決まったご利用者様のご家族様とは時々連絡を取りあいお話を伺ったり相談にも応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご利用者様の要望意向を把握し職員同士情報を共有しています。ご利用者様、ご家族様にお伺いしケアプランを作成しています。	利用者や家族の意向をアセスメントで把握し、介護計画に具体的な援助内容として反映させている。利用者の思いを把握することが困難な場合は、生活歴や職歴、趣味などを基に、気持ちを表出できるような支援を努めている。また、日常の談話の中から、「書道が好き」「こんな本が好き」などが分かり、それぞれ気付いた利用者の思いをケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様、ご家族様へアセスメントをしこれまでの暮らしの把握をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが日々の生活の中での状態の変化を観察し特記事項に記録を残し把握しています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の利用者様の状態を確認しモニタリングを行いご利用者様ご家族様のケアプラン作成しています。	介護計画作成は事前に家族から意見・要望を聞き、ケアマネ、職員で話し合い計画を立て、家族に確認し同意を得ている。かかりつけ医から意見を聞く場合もある。介護計画には短期、長期目標が立てられ、具体的な援助内容が明記されている。計画の見直しは3ヶ月ごとに行い、状態の変化により随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の日々の様子を記録し必ず引継ぎの際は、申し送りを行い情報を共有し気づきや工夫も記録に残しプラン見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様が病院へお連れするのが困難な場合は職員がお連れしています。併設のデイサービスとの交流、同事業所の温泉入浴も楽しんでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内から頂いている月の会報から情報を把握し利用者様とともに安全で豊かなくらしを楽しむことができます。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは訪問診療に来て頂いたり相談ごとがあるときは常に連絡を取りご利用者様の健康管理に努めています。	希望のかかりつけ医を受診している。協力医療機関や近隣の診療所をかかりつけ医としている人は月2回の訪問診療がある。専門医への受診は家族と一緒に職員も同行し、ホームでの状態を医師に説明し、適切に受診できるよう支援している。必要に応じて、同法人の他事業所の看護師に相談ができる連携体制もある。薬剤師の訪問指導もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のご利用者様の変化や気づきなどがある場合は随時看護師へ連絡をし相談してサポートしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	かかりつけ医との連携を取っており情報交換をしています。退院前にカンファレンスを行い退院後の適切な対応に努めています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	以前みとりを行い安らかな旅立ちをご家族様で送り出すことができ感謝しますと伝えられました。終末期のご利用者様がいらっしゃいます。ご家族様と十分に話し合っています。最後までご家族様も支援させていただきます。	「看取り指針」を策定し、看取り介護の基本方針、家族への支援、職員体制、医師との連携などを明記している。看取りの実績があり、終末期の利用者に対して職員は、家族、看護師、かかりつけ医と協力し、利用者の自己決定を尊重し、尊厳ある安らかな最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は急変時や事故発生時の対応AEDの使い方を研修して学んでいます。職員が協力し合い落ち着いて対応出来る様にしています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時研修を職員は行っており、マニュアルに従いあんげんにご利用者様を誘導します。施設は避難場所にも指定されています。	火災、風水害、地震対応マニュアルがあり、年2回、消防署指導のもと火災避難訓練を行っている。今後はコロナ禍の状況を見ながら夜間想定避難訓練や地域住民と連携し訓練を行う予定である。市の福祉避難所にも指定されている。スプリンクラー、火災報知器、自動通報装置が設置され、年2回設備点検も実施されている。備蓄は食料など7日分用意され、各感染症の予防対策備品も備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一同お一人おひとりの人格を尊重しプライバシーに配慮し対応するように心がけています。	「介護の基本原則」や「介護職の職業倫理」を作成し、プライバシー保護の研修を年1回、新人研修においては入職時に必ず実施している。呼び名は基本、名前に「さん」を付けて呼んでいる。居室に入る際はノックをし、名前を呼んで確認するなど、プライバシーに配慮している。職員は丁寧に、やさしく、ゆっくりと話すよう心掛け、利用者の尊厳を損ねない言葉遣いやケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様にお好きなお菓子を選択して頂いたり、お飲み物をご自身の気分で選べる楽しみを持って頂いたりご利用者様に買い物などの希望があれば一緒に外出する機会を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様に合わせた起床時間や食事時間などできる限り希望に添って支援しています。無理に合わせるのではなく入浴も気分によっては変更して入浴対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一回程度訪問理美容室さんに来て頂きカット、カラー、顔そりなどこれまで同様にご利用者の望むように対応しています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様に食べたいものを聞き取り、時々外食行事を行っています。また、食材のカットや後片付けも楽しみながらお手伝いをして頂いています。	食材調達や献立作成は委託業者が行っている。利用者の要望に応え、市場から新鮮な刺身をブロックで調達し、管理者が捌いて調理することもある。片付けや食器洗い、おやつ作りを手伝う利用者もいる。コロナ禍前は月1回外食する機会を設け、食事の楽しさを分かち合える工夫も行っていった。一人ひとりの水分や食事の摂取量をチェックし、禁忌食などについて情報共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の食事量は毎日記録し食事や水分摂取量の低下が見られたときは場合によっては医療機関に相談しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアチェックシートを毎日記録しご利用者様の口腔内の清潔保持に努めています。また訪問歯科にきていただき月に2回～4回口腔ケア歯科診療を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックシート、健康観察表を使い排泄パターンを把握し、ご利用者様に合わせてお声掛けを行っております。お声がけもご利用者様に配慮しながら行っております。	排泄チェックシートを活用し排泄パターンを把握して、トイレで排泄ができるよう支援している。トイレでの排泄は身体機能向上の点からも重視して取組んでいる。排泄の自立へ向けた支援を行っており、紙おむつから布パンツ利用になった人もいる。便秘対策には医師処方薬を服用する人もいるが、乳製品や乳酸飲料を食事に取り入れて予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促し、乳製品の提供、毎日の運動をしていただき便秘の予防に努めております。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	必ずご利用者様に入浴のタイミングを伺い望まない時は、時間帯、曜日を変更して行っている。お一人ずつゆったりと入浴していただいております。時には温泉入浴しております。	入浴は週2回を基本に、利用者の希望に沿い、時間や湯加減を調整し、気持ちよく楽しんで入浴ができるよう支援している。コロナ禍以前は同法人のデイサービスに設けられた温泉に入りに行き喜ばれていた。入浴を嫌がる人には入浴のタイミングや声掛けを工夫し、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の状況に合わせて、ゆったりとでき、安心して眠れるように心がけて対応しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	専属の薬剤師と常に連携を取り合っているので相談しております。体調の変化があれば医師にも相談しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様それぞれがこれまでの生活で趣味やホールでの役割を持つことにより喜びになるように支援しています。嗜好品もご家族の協力のもとこれまで同様に楽しまれています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併設しているデイサービスへの希望参加を行い、職員運転でのバスでのお出掛け、行事への参加で季節を感じてもらえるような外食行事も行っております。時々、ドライブ行事を行っております。	利用者・職員全員が特に楽しみにしている一つは、マミー号(バス)に乗車して、の外出である。令和3年には女川、定義、伊豆沼ハス祭り、石巻はらこ飯などに外出し、戸外で自然や人々に触れる楽しさを支援することができた。令和4年に入ってから外出行支援が困難な状況にあるが、ホーム周辺の散歩は続けており、緑豊かな環境や遠くに見える海を眺め外気浴を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様と、お買い物と一緒にいく時があり、ご自身でお好きなものを買う楽しみを持っていただいております。また、一日遠足の行事でもご自身で支払いをしてもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様から申し出があった場合は、電話をかけ会話を楽しまれております。ご家族様からはがき、お手紙などが届き笑顔で読んでいる姿が見られます。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち定理整頓に努めご利用者様にとって快適な場所であるように環境づくりをしております。ご利用者様と一緒に季節を感じる貼り絵なども飾っております。	内装は木材が多く使われ、リビングは天井が高く天窓から光が射し、明るく暖かい空間となっている。ソファがあり、ゆっくり休んでいる利用者もいる。温・湿度管理は心地良く過ごせるよう職員が適切に管理している。空気清浄機その他、季節毎に除湿器や加湿器を配置している。壁には利用者が手作りした季節の飾り物や、ホームの一年間の思い出の写真で作ったカレンダーが掛けられ、いつでも楽しい思い出に触れることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースは、ご利用者様が自由に心地よく過ごせるように誰もが好きな場所に座れるようにソファなども配置しております。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前使用されていた家具や、使い慣れたコップなどもお持ちいただき快適に居心地よく過ごしていただけるように努めております。	ベッド、エアコンが設置され、使い慣れたタンスやテレビの他、位牌を持参する人もいる。家族の記念写真やお花、鮮やかな色のキャラクタータオルなど、一人ひとり家庭的な雰囲気を出している。衣替えは家族と話し合っている。また、居室の掃除や洗濯は職員と利用者と一緒にするなど居心地良く過ごせるよう支援している。感染予防対策のため居室の換気やアルコール消毒も適宜行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様が、自立した生活をおくれるよう動線の確保をし、歩行の妨げに配慮してあります。時計を数個置きカレンダー、新聞、雑誌類なども置き工夫しております。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490300092		
法人名	有限会社マミーホーム		
事業所名	グループホーム梅の宮マミー ユニット:さくら		
所在地	宮城県塩釜市梅の宮16番11号		
自己評価作成日	2022.2.25	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2022年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは海を一望できる高台にあり避難場所にも指定されています。利用者様は毎日育ってきた街並み、海を眺めながら生活することによって心は落ち着き穏やかになりその人らしい生活を過ごして頂けるように支援しています。利用者様の性格やこれまでの生活状況を把握しホームでの役割を持つことによって不安なく安心して生活して頂けるように職員一丸となって情報を共有しながら統一したケアを心がけて支援しています。またホームにはバスもあり時々利用者様と一緒に職員が運転するバスに乗りドライブを楽しんだり併設しているデイサービスへ行きレクリエーション行事に参加し交流を楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2020年12月に開設した2ユニットの平屋建てのホームで、緑豊かな環境と海が臨める高台の静かな住宅街に立地している。法人母体の(有)マミーホームは通所介護、日常生活支援総合事業を運営している。職員は、マミーホーム介護理念「一、皆様の尊厳及び権利を尊重します。二、皆様を平等に対応します。三、自己の能力を磨きます。」を拠り所に、利用者が家族や地域に支えられ、尊厳ある人生が全うできる支援を目指している。コロナ禍前はホームのバスで外出したり、ボランティアとの交流、温泉入浴を楽しむ等の取組みを地域や人々との交流の要とし、地域と繋がりがながら暮らし続けられるよう支援して来た。管理者は人材育成と確保に熱意を持ち、様々な受験のためのサポートを行い、意欲的に資格取得支援に取り組んでいる。また同時に高校卒業生を積極的に採用するなど、若者の介護人材確保にも努力している。一方、更なる高齢化や介護度の変化による重症化に対応するため、今後、看取りや医療連携などの体制づくりの強化を進め、利用者が安心してこの地でその人らしく最期まで過ごせるよう取組み始めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホーム梅の宮マミー）「ユニット名 さくら」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的に研修会を行っている。そこでマミーホームの理念を職員に周知徹底を行っている。	マミーホーム介護理念があり、利用者の尊厳や権利の尊重が根幹となっている。新人研修や、年度初めに前年度の介護の振り返りと共に理念の研修を行い、理解を深めている。またホームの「介護の基本原則」「介護職の職業倫理」を作成し周知徹底している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の町内清掃への参加で側溝掃除、草取り等職員がと利用者様で参加して町内の方々と一緒に年に数回取り組ませて頂いています。	コロナ禍の下、地域との交流は困難な状況にある。町内会に加入し、令和2年(コロナ禍前)には、町内会の夏祭り、町内清掃や草取りなどを地域住民と一緒にいった。感染症対策を万全にし、歌のボランティアとの交流を実現させた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に町内会長、民生委員の方にも参加して頂きホームでの活動の様子等を報告をし理解して頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの取組み状況や出来事ご利用者様の様子報告を行いご利用者様や、町内会長、民生委員、地域包括支援センター、市役所職員の方も参加して頂き報告、質疑応答にて話し合いをし会議を行っています。	第1回目の会議を令和3年12月に市職員、地域包括職員、町内会長、民生委員、家族が参加し開催した。利用者の状況や研修、ヒヤリハット報告の他、コロナ感染症対策についても情報交換し、双方向な会議が行われた。コロナ禍での会議の運営方法として、書面開催等を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	塩竈市の担当者とは連絡を取りご意見を頂き運営推進会議にも参加して頂いています。	市職員からは開所に当たり相談し助言を得ていた。運営推進会議で情報交換を行い、日常的にも相談しやすい関係ができており、協力体制が築かれている。また、ホーム運営上の医療連携や加算など、今後直面する医療や看取りの課題についても情報交換を行い協力体制を整えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の資料を元に職員研修を行っています。身体拘束の事例はありません。	「身体拘束排除宣言」を策定し「身体拘束排除マニュアル」を整備して、身体拘束適正化委員会を定期的に開催している。また、新人研修や職員研修を通して、身体拘束をしないケアを学び実践に繋げられるよう努めている。玄関の施錠は行っていない。2市3町の見守りネットワークに加盟し、緊急時には協力が得られる体制がある。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の資料を元に職員研修を行っています。虐待の事例はありません。	定期的に身体拘束廃止についての研修と一緒に虐待防止の研修を行っている。研修後に職員は自己チェックを行い共通認識に努めている。不適切な言葉遣いやケアなどに注意を払い、未然に防止する体制を整えている。管理者は職員の普段とは違う様子などにも気を配り声掛けし、相談に応じたりしている。助成金を活用し介護ロボットを導入し職員の負担軽減を図り、虐待の未然防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての資料を元に職員研修を行ってもとに職員研修を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には契約事項についてきちんと説明し納得して頂き同一を得ています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月毎にホームでのご様子をを文章と写真などでお知らせしています。また意見や要望に対してなどアンケートを取らせていただき運営に反映させて頂いています。運営推進会議へのご家族様の参加	運営推進会議や介護計画作成時など定期的にアンケートを行い、意見や要望を聞き運営や作成に活かしている。毎月情報紙「マミーパラダイス」と便りを郵送し、感染症防止対策や医療に関する質問に答えたり、利用者の様子を伝えている。電話時や来訪時には積極的に声掛けし、意見や要望を聞いている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は随時、職員との面談する機会を設け意見を聞きまた年二回は必ず機会を設け意見を聞いています。	月1回の職員会議で意見・要望を聞いており、「職員の連携について」などについて意見を交わし、改善に繋げている。管理者は職員と年2回面談を行い、目標やその評価について話し合い、運営に関する意見も聞きながら、働きやすい職場作りに取り組んでいる。介護福祉士、ケアマネなどの専門職の人材育成を目標にして、職員の資格取得支援を積極的に行い、受験料援助、シフト調整などの支援をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場づくりを目指して日々職員一人ひとりを大事にし職員同士の交流の機会を定期的に設けスキルアップ向上にも支援し資格取得や研修費負担なども支援しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップへの支援として勉強会の開催外部研修への費用負担等積極的に支援しています。研修などの情報を随時提供しています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	デイサービスの利用者様と週一回～二回程度合同レクリエーションを行っています。	塩釜市や、宮城県ケアマネ協会塩釜支部などのリモート研修に参加し、情報交換を行うなど交流を通じて、ケアの質の向上を図っている。同法人の他事業所と合同研修で「感染症対策」について学び合い、隣接するデイサービスとは合同で行事を行い、利用者の楽しみや新たな関係づくりを図っている。宮城県グループホーム協議会に入会する予定にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様のこれまでの生活状況や趣味などを踏まえてご利用者様に寄り添い不安に思っている事。要望などをきちんと把握しながらチーム一丸となって安心していただけるように支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に安心してご利用して頂けるように不安なこと要望などはお伺いしてご理解して頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様にとって必要とされるサービスを提案しご家族様と共に検討して色々なサービスを紹介しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者様を家族と思いとに生活することによってご利用者様のその人らしさを大事にしています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が面会にいらした時などご本人様と一緒に話し合いをする機会を設けご本人様が思っていることなどを共に伝えご家族様との絆を大切にしています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方が面会に来られたり入居前まで通っていたデイサービスの仲間定期的に会い楽しい時間を過ごされています。	コロナ禍以前は友人、近隣住民、親戚、子どもや孫が面会に訪れ、デイサービスの利用者も定期的に来訪し交流する機会も多かった。現在、コロナ感染予防対策のためチェックを厳しく行い、面会は玄関近くに場所を設けて、他の利用者との接触を避け行っている。SNSを活用し、オンライン面会をする人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームでの家事をともに一緒に行うことによってご利用者様同士支え合う環境づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	症状が進み医療的な処置が必要となり退居が決まったご利用者様のご家族様とは時々連絡を取りあいお話を伺ったり相談にも応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご利用者様の要望意向を把握し職員同士情報を共有してます。ご利用者様、ご家族様にお伺いしケアプランを作成しています。	利用者や家族の意向をアセスメントで把握し、介護計画に具体的な援助内容として反映させている。利用者の思いを把握することが困難な場合は、生活歴や職歴、趣味などを基に、気持ちを表出できるような支援を努めている。また、日常の談話の中から、「書道が好き」「こんな本が好き」などが分かり、それぞれ気付いた利用者の思いをケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様、ご家族様へアセスメントをしこれまでの暮らしの把握をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが日々の生活の中での状態の変化を観察し特記事項に記録を残し把握しています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の利用者様の状態を確認しモニタリングを行いご利用者様ご家族様のケアプラン作成しています。	介護計画作成は事前に家族から意見・要望を聞き、ケアマネ、職員で話し合い計画を立て、家族に確認し同意を得ている。かかりつけ医から意見を聞く場合もある。介護計画には短期、長期目標が立てられ、具体的な援助内容が明記されている。計画の見直しは3ヶ月ごとに行い、状態の変化により随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の日々の様子を記録し必ず引継ぎの際は、申し送りを行い情報を共有し気づきや工夫も記録に残しプラン見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様が病院へお連れするのが困難な場合は職員がお連れしています。併設のデイサービスとの交流、同事業所の温泉入浴も楽しまれています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内から頂いている月の会報から情報を把握し利用者様とともに安全で豊かなくらしを楽しむことができます。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは訪問診療に来て頂いたり相談ごとがあるときは常に連絡を取りご利用者様の健康管理に努めています。	希望のかかりつけ医を受診している。協力医療機関や近隣の診療所をかかりつけ医としている人は月2回の訪問診療がある。専門医への受診は家族と一緒に職員も同行し、ホームでの状態を医師に説明し、適切に受診できるよう支援している。必要に応じて、同法人の他事業所の看護師に相談ができる連携体制もある。薬剤師の訪問指導もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のご利用者様の変化や気づきなどがある場合は随時看護師へ連絡をし相談してサポートしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	かかりつけ医との連携を取っており情報交換をしています。退院前日にカンファレンスを行い退院後の適切な対応に努めています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	以前みとりを行い安らかな旅立ちをご家族様で送り出すことができ感謝しますと伝えられました。終末期のご利用者様がいらっしゃいます。ご家族様と十分に話し合っています。最後までご家族様も支援させていただきます。	「看取り指針」を策定し、看取り介護の基本方針、家族への支援、職員体制、医師との連携などを明記している。看取りの実績があり、終末期の利用者に対して職員は、家族、看護師、かかりつけ医と協力し、利用者の自己決定を尊重し、尊厳ある安らかな最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は急変時や事故発生時の対応AEDの使い方を研修して学んでいます。職員が協力し合い落ち着いて対応出来る様にしています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時研修を職員は行っており、マニュアルに従いあんげんにご利用者様を誘導します。施設は避難場所にも指定されています。	火災、風水害、地震対応マニュアルがあり、年2回、消防署指導のもと火災避難訓練を行っている。今後はコロナ禍の状況を見ながら夜間想定避難訓練や地域住民と連携し訓練を行う予定である。市の福祉避難所にも指定されている。スプリンクラー、火災報知器、自動通報装置が設置され、年2回設備点検も実施されている。備蓄は食料など7日分用意され、各感染症の予防対策備品も備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一同お一人おひとりの人格を尊重しプライバシーに配慮し対応するように心がけています。	「介護の基本原則」や「介護職の職業倫理」を作成し、プライバシー保護の研修を年1回、新人研修においては入職時に必ず実施している。呼び名は基本、名前に「さん」を付けて呼んでいる。居室に入る際はノックをし、名前を呼んで確認するなど、プライバシーに配慮している。職員は丁寧に、やさしく、ゆっくりと話すよう心掛け、利用者の尊厳を損ねない言葉遣いやケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様にお好きなお菓子を選択して頂いたり、お飲み物をご自身の気分で選べる楽しみを持って頂いたりご利用者様に買い物などの希望があれば一緒に外出する機会を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様に合わせた起床時間や食事時間などできる限り希望に添って支援しています。無理に合わせるのではなく入浴も気分によっては変更して入浴対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一回程度訪問理美容室さんに来て頂きカット、カラー、顔そりなどこれまで同様にご利用者様の望むように対応しています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様に食べたいものを聞き取り、時々外食行事を行っています。また、食材のカットや後片付けも楽しみながらお手伝いをして頂いています。	食材調達や献立作成は委託業者が行っている。利用者の要望に応え、市場から新鮮な刺身をブロックで調達し、管理者が捌いて調理することもある。片付けや食器洗い、おやつ作りを手伝う利用者もいる。コロナ禍前は月1回外食する機会を設け、食事の楽しさを分かち合える工夫も行っていった。一人ひとりの水分や食事の摂取量をチェックし、禁忌食などについて情報共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の食事量は毎日記録し食事や水分摂取量の低下が見られたときは場合によっては医療機関に相談しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアチェックシートを毎日記録しご利用者様の口腔内の清潔保持に努めています。また訪問歯科にきていただき月に2回～4回口腔ケア歯科診療を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックシート、健康観察表を使い排泄パターンを把握し、ご利用者様に合わせてお声掛けを行っております。お声がけもご利用者様に配慮しながら行っております。	排泄チェックシートを活用し排泄パターンを把握して、トイレで排泄ができるよう支援している。トイレでの排泄は身体機能向上の点からも重視して取り組んでいる。排泄の自立へ向けた支援を行っており、紙おむつから布パンツ利用になった人もいる。便秘対策には医師処方薬を服用する人もいるが、乳製品や乳酸飲料を食事に取り入れて予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促し、乳製品の提供、毎日の運動をしていただき便秘の予防に努めております。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	必ずご利用者様に入浴のタイミングを伺い望まない時は、時間帯、曜日を変更して行っている。お一人ずつゆったりと入浴していただいております。時には温泉入浴しております。	入浴は週2回を基本に、利用者の希望に沿い、時間や湯加減を調整し、気持ちよく楽しんで入浴ができるよう支援している。コロナ禍以前は同法人のデイサービスに設けられた温泉に入りに行き喜ばれていた。入浴を嫌がる人には入浴のタイミングや声掛けを工夫し、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の状況に合わせて、ゆったりとでき、安心して眠れるように心がけて対応しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	専属の薬剤師と常に連携を取り合っているので相談しております。体調の変化があれば医師にも相談しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様それぞれがこれまでの生活で趣味やホールでの役割を持つことによって喜びになるように支援しています。嗜好品もご家族の協力のもとこれまで同様に楽しまれています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併設しているデイサービスへの希望参加を行い、職員運転でのバスでのお出掛け、行事への参加で季節を感じてもらえるような外食行事も行っております。時々、ドライブ行事を行っております。	利用者・職員全員が特に楽しみにしている一つは、マミー号(バス)に乗車して、の外出である。令和3年には女川、定義、伊豆沼ハス祭り、石巻はらこ飯などに外出し、戸外で自然や人々に触れる楽しさを支援することができた。令和4年に入ってから外出支援が困難な状況にあるが、ホーム周辺の散歩は続けており、緑豊かな環境や遠くに見える海を眺め外気浴を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様と、お買い物と一緒に行く時があり、ご自身でお好きなものを買う楽しみを持っていただいております。また、一日遠足の行事でもご自身で支払いをしてもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様から申し出があった場合は、電話をかけ会話を楽しまれております。ご家族様からはがき、お手紙などが届き笑顔で読んでいる姿が見られます。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち定理整頓に努めご利用者様にとって快適な場所であるように環境づくりをしております。ご利用者様と一緒に季節を感じる貼り絵なども飾っております。	内装は木材が多く使われ、リビングは天井が高く天窓から光が射し、明るく暖かい空間となっている。ソファがあり、ゆっくり休んでいる利用者もいる。温・湿度管理は心地良く過ごせるよう職員が適切に管理している。空気清浄機その他、季節毎に除湿器や加湿器を配置している。壁には利用者が手作りした季節の飾り物や、ホームの一年間の思い出の写真で作ったカレンダーが掛けられ、いつでも楽しい思い出に触れることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースは、ご利用者様が自由に心地よく過ごせるように誰もが好きな場所に座れるようにソファなども配置しております。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前使用されていた家具や、使い慣れたコップなどもお持ちいただき快適に居心地よく過ごしていただけるように努めております。	ベッド、エアコンが設置され、使い慣れたタンスやテレビの他、位牌を持参する人もいる。家族の記念写真やお花、鮮やかな色のキャラクタータオルなど、一人ひとり家庭的な雰囲気を出している。衣替えは家族と話し合い行っている。また、居室の掃除や洗濯は職員と利用者が一緒に行うなど居心地良く過ごせるよう支援している。感染予防対策のため居室の換気やアルコール消毒も適宜行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様が、自立した生活をおくれるよう動線の確保をし、歩行の妨げに配慮してあります。時計を数個置きカレンダー、新聞、雑誌類なども置き工夫しております。		